

部活で学んだこと

栗島浦村立栗島浦中学校 3年 渡邊 幸男

「あきらめるな」

心のどこかから声がしました。緊張で声も出ない、足も動かない。もう駄目だと思っていた私。しかし、心で誰かが叫んだのです。「あきらめるな！」と。

今年、私は所属する卓球部の試合で下越大会に出場しました。今まで目標にしてきた下越大会の試合。緊張はすさまじいものでした。結果は、2回戦敗退。負けた瞬間は頭が真っ白になりました。しかし、なぜか、あの負けた最後の試合が、私は楽しかったのです。私にとって、初めての感覚でした。

みなさんは、部活から学んだことはありますか。部活の意味を考えたことはありますか。

私は、卓球に打ち込み、部活のおもしろさを知りました。本気で取り組む意味にも気がつけました。本気で取り組む姿勢は、私の学校生活を明るくしました。

私の部活は卓球部です。フィリピンから来た私は、卓球をよく知りませんでした。打ち方もルールも何も分からない私に、先生が近づき、まずは打つフォームを教えてくださいました。フォア・バックの打ち方を教わり、毎日厳しい練習をしました。しかし、その時は、まだ試合に勝つことは考えられず、毎日のきびしい練習が嫌で仕方ありませんでした。

学校生活も、てきとうに過ごしていました。ロッカーを整理することもしない。部活の行動も遅い。生活のほとんどにあまり興味を持っていませんでした。

私が変わったのは、2年生になってからでした。部活が楽しくなってきたのです。

まず、先輩が目標になりました。2年生の郡市大会。先輩は絶対にあきらめずに最後まで戦っていました。点を取られても取りかえす。応援にこたえるよ

うに勝つ姿が、すごく誇らしく見えました。私は、先輩を超えたいと思いました。だから、もっと真剣に、本気で卓球をして、先輩に追いつこうと決めました。

そして、本格的に教えてくれる先生。技術面でも、心の面でも、すべてをサポートしてくれました。試合前、先生は「楽しんでいけ。」と言いました。「なぜ、楽しめというのだろうか？」それまで厳しく・真剣に練習してきたので、私は戸惑いました。しかし、試合に本気で臨む中で、先生のいう「楽しい」が、遊びの「楽しい」ではなく、本気の「楽しい」だということに気がつきました。本気でやった後にある達成感、これが本当の「楽しさ」だったのです。

さらに、勝ちたいと思うようになってきた自分。絶対に3年生になったら下越大会に行こうときめてから、どんな時も卓球が頭から離れなくなりました。

部活が楽しくなってきたから、学校生活も前向きになりました。勉強にも、委員会活動にも、自分の道具にも、興味が持てるようになりました。一つ一つの活動にも真剣に取り組み、達成感を味わえるようになりました。

部活の楽しさは遊びの楽しさとは違います。時には辛いこともあります。しかし、本気で取り組み、自分がどれだけ変化したかに気がつくとき、部活をしてきて良かったなと思えます。たとえ負けても、心に達成感が残ると、自分がしてきたことは良かったと思えます。そして、次の目標に進むことができます。

学校生活に興味を持てなかった私を変えてくれたのは部活でした。部活で学んだ本気の姿勢を忘れず、これからも自分の生活や夢を切り開いて行きたいと思えます。